

東北地域づくり協、東北建設マネジ協

公共事業の現状など聞く

建設マネジメント技術講習会

東北地域づくり協会(渥美雅裕理事長)、東北建設マネジメント技術協会(秋葉敬治代表理事)は22日、仙台市のエルパーク仙台で建設マネジメント技術講習会を開いた。東北地方整備局の入札担当者らを招き、

現状の入札契約制度などについて理解を深めた。この講習会は、主に発注者支援業務に携わる技術者を対象に専門知識の習熟と技術力の向上を目的に開いている。毎年開催していたが、2020年は台風の接近、21年は新型コロナウイルス感染症を懸念して2年連続中止となっていた。3年ぶりに開催した今回は、聴講を希望する会員企業の

あいさつする秋葉代表理事



技術担当者らが会場で約50人、ウェブで約700人参加した。主催2者を代表し、東北建設マネジメント技術協会の秋葉代表理事は、国が示した「成長と分配」を例に挙げ「実力の向上を図り、分配を受け入れる体制を整えていくことが必要だ。今回は、今後の国土交通行政について習熟を図るため、東北地方整備局技術管理課の担当者を招いた。しっかりと聴講してほしい」とあいさつした。

講習会では、東北整備局企画部の二瓶昭弘技術調整管理官が「公共事業を取り巻く最近の話題」、同技術管理課の安部剛課長が「入

札契約制度と品質確保の取り組み」をテーマに講演。このほか、「i-Constructionの推進／工事監督」、「工事請負契約書第26条(スライド)」について担当者が解説した。参加者は耳を傾けてメモを取り、参考にしていった。



技術研さんへ講習会

東北マネジメント協ら

東北建設マネジメント技術協会（秋葉敬治代表理事）は22日、仙台市青葉区のエルパーク仙台で2022年度「建設マネジメント技術講習会」を開いた。写真。東北地域づくり協会（渥美雅裕理事長）が共催した。発注者支援に関わる技術者の技術力向上を目的に3年ぶりに開催。会場には仙台を拠点とする会員企業を中心に48人が参加したほか、ウェブ方式で約700人が



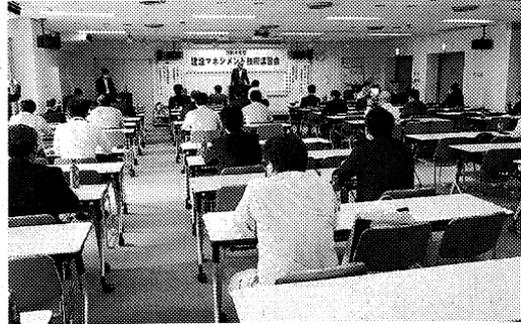
視聴した。冒頭、あいさつした秋葉代表理事は「知識の習得と技術力の向上を図り、業務の受け入れ態勢を整えてい

きたい」と述べた。

講習会では東北地方整備局企画部の二瓶昭弘技術調整管理官が公共事業を取り巻く最近の話題を提供。安部剛技術管理課長が入札契約制度と品質確保の取り組みを説明したほか、i-Constructionの推進やスライド条項の動向を紹介した。

最新の国土交通 行政動向を学ぶ

東北地域づくり協
と建設マネ技協



東北地域づくり協会(渥美雅裕理事長)と東北建設マネジメント技術協会(秋葉敬治代表理事)は、仙台市内のエルパーク仙台で2022年度建設マネジメント技術講習会を開いた。写真。

東北地方整備局の職員を講師に招き、会場とウェブを合

わせて発注者支援などの業務を担当する技術者約750人が、公共工事や入札・契約制度などの最新の話題に熱心に耳を傾けた。

主催者を代表してあいさつに立った秋葉代表理事は、国の経済政策の一つとなる「成長と分配」に言及し「分配を受け入れられる態勢を整えなければならぬ。国土交通行政の最新の話題に関する講演を傾聴し、技術力向上に役立ててほしい」と語った。

この後、同企画部の二瓶明弘技術調整管理官が「公共事業を取り巻く最近の話題について」、安部剛技術管理課長は「入札契約制度と品質確保の取組について」、沼崎光祥課長補佐は「i-Constructionの推進/工事監督について」、大久保広課長補佐は「工事請負契約書第26条(スライド)について」と題してそれぞれ講演した。